

(参考資料)

## 【用語説明】

### アルファベット順

DMA T (Disaster Medical Assistance Team)	災害派遣医療チームのこと。大規模災害や事故などの現場で急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持ったチームで、専門的な訓練を受けた医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）などで構成される。市立堺病院は、2チームを登録、配備している。
D P C (Diagnosis Procedure Combination)	診断群分類別包括評価のこと。従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為を基に厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせて計算する請求方式のこと。市立堺病院は、平成18年7月に導入している。
P D C A サイクル	業務プロセスの管理手法の一つで、計画(plan)→実行(do)→評価(check)→改善(act)という4段階の活動を繰り返し行なうことで、継続的にプロセスを改善していく手法。
t - P A	血栓溶解療法のこと。動脈が詰まり脳の細胞が死んでしまう前に血管を詰めている血栓（血の固まり）を溶かし、血流を再開することで脳の働きを取り戻す治療法。

### あいうえお順

アクシデント	医療事故のこと。医療に関わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故で、医療従事者の過誤、過失の有無を問わない。死亡、生命の危険、病状の悪化等の身体的被害及び苦痛、不安等の精神的被害が生じた場合、患者が廊下で転倒するなど、医療行為とは直接関係しない場合、患者だけでなく、注射針の誤刺のように、医療従事者に被害が生じた場合を含む。
インシデント	医療事故に至る前に気付いたりしたこと。患者に障害の発生しなかった事例のみならず障害の発生した事例、過失の見られるものや不可抗力、また結果だけでなくプロセスの問題も含まれる。
インフォームド・コンセント	医師が診断と治療のねらいや内容など診療に関する情報を患者や家族に十分に説明し、その説明内容を患者側が納得して治療を受けることに同意すること。
ウォークイン	他院からの紹介患者や直接歩いて救急受診された患者のこと。
オープンカンファレンス	地域全体の医療水準を向上させるため開催される勉強会のこと。病院内職員に限らず、地域の医療関係者等の参加者を募り、最近の考え方、事例研究、診療内容等についての講演や発表を中心に開催する。

緩和ケア医療	緩和ケアは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的な問題、さらにスピリチュアル（宗教的、哲学的なところや精神、霊魂、魂）な問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛を予防したり和らげることで、QOL（人生の質、生活の質）を改善する行為のこと。
がんリハビリテーション	がん患者の生活機能と生活の質（QOL）の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けた中で、患者に最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させること
救急ワークステーション	医療機関と消防機関が連携し、救急要請に対して、救急隊員とともに、必要に応じ、医師が同乗して現場に出場するなどの方法により、病院内での救急隊員の知識、技術の向上を目的とした「教育」の拠点のこと。
クリニカルインディケータ	医療の質を定量的に評価する指標のこと。各分野で着目する指標を設定し、取り組み前後や経年変化を定量的に数値で収集し、より改善につなげるために検証していくもの。
クリニカルパス	医師、看護師その他医療スタッフが、共同して実践する治療、検査、看護、処置、指導などの標準的な治療行動計画の流れを示すもの。
周術期	入院、麻酔、手術、回復といった、患者の術中だけでなく術前・術後の期間を含めた一連の期間。
三次救急医療	重症および複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者に対し、高度な救急医療を総合的に24時間体制で提供する医療のこと。
セカンドオピニオン	患者が検査や治療を受けるにあたり、主治医以外の医師に求めた意見、または意見を求める行為のこと。
地域医療支援病院	医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有するものについて、都道府県知事が個別に承認している病院のこと。
地域完結型医療	患者の身近な地域の中で、それぞれの病院や診療所・クリニック等が、その特長を活かしながら役割を分担して、病気の診断や治療、検査、健康相談等を行い、地域の医療機関全体で1つの病院のような機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していくこと。
地域連携パス	患者や患者の家族が納得の上で、急性期病院、回復期リハビリ病院、かかりつけ医、介護施設、居宅サービス提供事業所など診療に当たる複数の医療機関が、役割分担を含めあらかじめ診療内容について患者の情報を共有しながらサポートしていくシステムのこと。急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に帰れるよう治療計画を作成し、治療を受ける医療機関で共有して用いる。

治験	治療試験の略。新薬の効果を確かめたり、既存の薬剤の効果と副作用の追跡調査をするため、患者や健康な人に服用してもらい試す臨床試験のうち、特に製薬会社で開発中の医薬品や医療機器を患者や健康な人に使用してもらい、データを収集して有効性、副作用や安全性を確認する試験をいう。治験は国の基準を満たした医療機関で行われる。
低侵襲手術	手術・検査などに伴う痛み、発熱・出血などをできるだけ少なくする医療。例えば内視鏡やカテーテルなど、身体に対する侵襲度が低い医療機器を用いた診断・治療のこと。患者の負担が少なく、回復も早くなる。
二次救急医療	救急患者の検査・治療を24時間体制で行い、入院病床を有する医療機関で、通常、救急病院と呼ばれる。
ハートコール	急性心筋梗塞、狭心症、急性心不全等の救急疾患に対応するため、救急車からの電話に担当医が直接対応するシステムのこと。市立堺病院では、365日24時間、循環器内科医が対応している。
病院前医療体制	救急現場から医療機関へ搬送されるまでの間において、救急救命士等が医行為を実施する場合、当該医行為を医師が指示又は指導・助言及び検証してそれらの医行為の質を保障することを意味するもの。
病診連携	診療所の医師と病院の医師が連携をとりながら診療を行うこと。
病病連携	患者の病状に応じた適切な医療が受けられるように各病院間で連携をはかること。
メディカルコントロール	医学的観点から救急隊員が行う応急措置等の質を保証すること。救急現場における医師による救急隊への指示、助言や救急隊員の教育や救護活動の事後評価などを行う。
リスクマネジメント	プロジェクトにおける様々なリスク管理のこと。リスクを組織的に管理し、予測しうる危機的な事態を回避、あるいはそのことによる被害を最低限にとどめるための仕組みや活動。